特別展
「夷酋列像 ―蝦夷地イメージをめぐる 人・物・世界―」

《夷酋列像》は、アイヌの指導者12人を描いた肖像画です。

本展示では、「夷酋列像」を近世絵画史のなかでとらえるとともに、18世紀におけるアイヌの事情やアイヌ文化の背景に隠された中国やロシアを含めた北東アジアと蝦夷地の知られざる歴史・文化を明らかにします。

会期　2月25日(木)～5月10日(火)
会場　特別展示館

■関連イベント
「アイヌの手仕事 ―自然素材と織物を中心に」

アイヌの文化にふれてみよう！ 植物を使った織物のお話のあと、実際にガマの葉でコースターを作ります。

日時　3月12日(土) 13時30分～15時(受付13時)
会場　万博記念公園　自然観察学習館
講師　吉本忍(本館 名誉教授)
コースター作り指導　自然観察学習館
申込期間　2月1日(月)～2月29日(月)
※事前申込、参加費(材料費・保険代として300円)、定員40組、小学生以下要保護者同伴、雨天決行

お申し込み・お問い合わせ
自然観察学習館（開館10時～16時　水曜休館）
電話06・6877・6923

春のみんぱくフォーラム2016 ―ゆったり東南アジア

舞踊や音楽などのイベントを通して、ゆったりとした東南アジアの日常を体感してください。

■関連イベント
◆ワークショップ
「東南アジアの仮面と人形」

ラオス、カンボジア、マレーシア、インドネシア（ジャワ、バリ）などの芸能を取り上げ、パフォーマンスや映像を交えたお話とワークショップをシリーズで開催します。

①2月13日(土)　②2月14日(日)
③2月20日(土)　④2月21日(日)
⑤2月27日(土)　⑥2月28日(日)
時間　全日程11時～13時（開場10時30分）
会場　本館第5セミナー室
※1月26日(火)申込受付終了。
※プログラムによっては申込受付を延長する場合があります。詳しくはホームページをご覧ください。

みんぱく映画会
「波伝谷に生きる人びと」

我妻監督と波伝谷の方々をお招きし、映画上映を通して皆さんと被災地の将来について考えます。

日時　2月6日(土)
13時～16時15分（開場12時30分）
会場　本館講堂（定員450名）
※申込不要、要展示観覧券、11時から本館2階観覧券売場にて整理券を配布

国際ワークショップ
「フォーラム型情報ミュージアムのシステム構築に向けて ―オンライン協働環境作りのための理念と技術的側面の検討」

日時　2月11日(木・祝)、2月12日(金)
各日　10時～18時
会場　本館第4セミナー室(定員60名)
使用言語　英語(日本語逐次通訳)
※事前申込、参加無料

国際シンポジウム
「無形文化遺産の継承における『オーセンティックな変更・変容』」

3月11日(金)～13日(日)
会場　本館第4セミナー室（定員60名）
使用言語　英語（日本語同時通訳）
※事前申込、参加無料

みんぱくミュージアムパートナーズ
「点字体験ワークショップ」

日時　2月13日(土) 12時～15時30分
会場　本館エントランスホール
※申込不要、参加無料

公開講演会
「ワールドアートの最前線 ―アイヌの文様とエチオピアの響き」

アート（芸術）概念自体を問い直す、ワールドアートの動向について、国、地域や製作者の状況などの違いに注目して、紹介していきます。

日時　3月25日(金) 18時30分～20時45分
会場　オーバルホール（大阪市北区梅田）
定員480名
主催　国立民族学博物館・毎日新聞社
※参加無料、事前申込、要参加証、手話通訳あり

お申し込み・お問い合わせ
本館　研究協力係
電話　06・6878・8209

カレッジシアター
「地球探究紀行」

みんぱくの研究者が驚きと感動をお届けします。世界の文化の〝奥深く〟へご一緒にどうぞ。

時間　13時～14時30分
会場　あべのハルカス近鉄本店「スペース9」
※事前申込（参加状況により当日受付あり）、参加費各回1000円（定員各回50名）
共催　産経新聞社、近鉄文化サロン、スペース9
特別協力　国立民族学博物館、千里文化財団

2月3日(水)
パキスタンの山奥でことばを調べる
講師　吉岡乾（本館 助教）

2月24日(水)
南太平洋のサンゴ島を掘る ―女性考古学者の謎解き
講師　印東道子（本館 教授）

お申込み・お問い合わせ先
ウェーブ産経カレッジシアター係
06・6633・9087

●中央・北アジア、アイヌの文化展示リニューアルのお知らせ

展示リニューアル工事のため、中央・北アジア、アイヌの文化展示場を3月16日(水)まで閉鎖しています。

●展示場閉鎖のお知らせ

設備工事のため、1月から3月に各展示場を次のとおり閉鎖します。

オセアニア　1月27日(水)～2月3日(水)
西アジア・音楽・言語　2月3日(水)～2月10日(水)
アフリカ　2月10日(水)～2月17日(水)
朝鮮半島の文化・中国地域の文化　2月17日(水)～2月24日(水)
南アジア　2月24日(水)～3月2日(水)
日本の文化　3月2日(水)～3月9日(水)
東南アジア　3月9日(水)～3月16日(水)

●入館料割引の案内

1月21日(木)～2月23日(火)の期間は団体料金相当額(一般350円、高校・大学生200円、小・中学生90円)で観覧いただけます。

●みんぱくシャトルバスのご案内

大阪モノレール「万博記念公園駅」とみんぱくの間の直通送迎バスを期間限定で運行します。

運行日　2月25日(木)～5月10日(火)
1日11往復、所要時間10分、無料
運休日　休館日、2月27日(土)
3月5日(土)、6日(日)、13日(日)

みんぱくゼミナール

時間　13時30分～15時（13時開場）
会場　本館講堂
定員　450名（当日先着順）
参加費　無料（展示をご覧になる方は展示観覧券が必要です）
第453回　2月20日(土)
みんぱくにタイ寺院ができるまで
講師　平井京之介（本館 教授）

タイ北部農村にある仏教寺院

新しくなったみんぱくの東南アジア展示場にタイの寺院ができました。外からみた壮麗さや色彩の豊かさは有名ですが、寺院の中でどんなことがおこなわれているのかまではあまり知られていません。みんぱくの展示を紹介しながら、タイの人びとにとっての仏教寺院の意味を考えてみたいと思います。

みんぱくウィークエンド・サロン
研究者と話そう

時間　14時30分～15時30分
※申込不要、参加無料（要展示観覧券）
本館の研究者が来館された皆様の前に登場します！「研究について」「調査している地域（国）の最新情報」「展示資料について」など、話題や内容は実に多彩。

2月7日(日)　ヨーロッパ展示場
一神教の宗教、多神教の宗教
話者　新免光比呂（本館 准教授）

2月14日(日)　本館ナビひろば
窓から「見ることができる」収蔵庫
話者　園田直子（本館 教授）

2月21日(日)　本館ナビひろば
宗教の始原をさぐる ―南部アフリカの聖霊教会の現在(いま)
話者　吉田憲司（本館 教授）

2月28日(日)　本館ナビひろば
人魚のミイラ ―驚異と怪異の接点
話者　山中由里子（本館 准教授）

※各イベントについてくわしくはみんぱくホームページをご覧ください。
※電話でのお問い合わせの受付時間は、9時～17時（土日祝を除く）です。

刊行物紹介

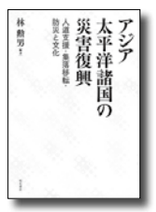
■齋藤玲子 編
『カナダ先住民芸術の歴史的展開と現代的課題 ―国立民族学博物館所蔵のイヌイットおよび北西海岸先住民の版画コレクションをとおして』 SER No.131
国立民族学博物館　1,100円（税抜）

版画の調査を足掛りに、芸術の展開がカナダ先住民社会に与えた影響を探った。芸術をはじめとする文化の復興は、先住民の権利回復を後押しし、彼らの経済を支えるとともに、アイデンティティの象徴ともなっている。

■岸上伸啓 編
『環北太平洋地域の先住民文化』 SER No.132
国立民族学博物館　900円（税抜）

環北太平洋地域の先住民文化についての研究史概論と日本人研究者による文化人類学、考古学、言語学などの諸研究を所収。同地域の研究を発展させるためには比較研究と学際研究、先住民社会との協働研究が必要と主張している。

■林勲男 編
『アジア太平洋諸国の災害復興 ―人道支援・集落移転・防災と文化』　**明石書店　4,300円（税抜）**



2011年の東日本大震災も含め、近年のアジア太平洋諸国では、巨大地震、津波、サイクロンなどの自然災害が頻発している。各地域の専門家が災害や地域の違いを越えて共通する災害復興の課題に取り組んでいる。

友の会

国立民族学博物館友の会　電話 06-6877-8893（9時～17時、土日祝を除く） FAX 06-6878-3716
http://www.senri-f.or.jp/　E-mail minpakutomo@senri-f.or.jp

友の会講演会（大阪）

会場　本館第5セミナー室（定員96名）
※当日先着順、会員無料（会員証提示）、一般500円

第451回　2月6日(土) 14時～16時
世界の食文化を学ぶ⑥
博物館で食文化を考える ―みんぱく展示場をフィールドに見立てて
講師　池谷和信（本館 教授）

地球上にはさまざまな飲食文化がみられます。米や小麦、トウモロコシや芋類などの主食、肉や魚や野菜から得る副食、茶や酒、乳など、それらの組み合わせには地域的な多様性がみられます。一方で「調理をする」「食糧を分かちあう」といった行為には、人類文化としての共通性を見いだすことができます。本講演会では、展示場をフィールドに見立て、各地の食の在り方をさぐるとともに、食文化研究の動向にも触れながら、食の過去、現在、未来について考えます。

●講義（14時～15時10分）終了後、展示場の見学会をおこないます。

第452回　3月5日(土) 14時～16時
祖先とともに住まう家 ―インドネシア、スンバ島で家屋を建てる
講師　佐藤浩司（本館 准教授）

乾燥した自然環境――決して生活条件のよくないスンバ島を有名にしているのは、豊かな装飾を施した織物と巨石文化、それに棟の高く突き出た独特の家屋の並ぶ集落景観です。巨大な屋根の高さは、地域によっては10メートルを超えることもあります。ところが、年に二度の農耕儀礼の時にしか、人間は屋根裏にのぼることが許されないのです。スンバ島の屋根にはどんな秘密がかくされているのでしょうか。建築構造や空間構成など、家屋にまつわる慣習とあわせてお話します。

●講義（14時～15時10分）終了後の懇談会では、映像資料「マラプの家」を鑑賞します。